

所属名	事務事業名	ページ番号
環境政策課	公衆衛生事業	2
環境政策課	犬の適正管理対策経費	3
環境政策課	地域猫推進事業	4
環境政策課	カラス対策事業	5
環境政策課	アライグマ等対策経費	6
環境政策課	環境マネジメントシステムの推進と普及	7
環境政策課	環境教育の推進（子ども）	8
環境政策課	次世代自動車普及推進事業	9
環境政策課	洞鳴の滝小水力発電活用施設管理事業	10
環境政策課	脱炭素社会推進事業	11
環境政策課	SDGs実践行動促進事業	12
環境政策課	ラムサール条約湿地賢明利用推進事業	13
環境政策課	自然環境保全推進事業	14
環境政策課	東よか干潟拠点施設維持管理事業	15
環境政策課	自然環境調査事業	16
環境政策課	海洋プラスチックごみ対策啓発事業	17
環境政策課	衛生害虫駆除事業	18
環境政策課	佐賀市環境保健推進協議会経費	19
環境政策課	下水道事業会計繰出金	20

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	公衆衛生事業	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上		
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	①市民が公衆トイレ（どんだんどの森）を問題なく使えるよう適切に維持管理する。 ②佐賀市上下水道局が運営する以外の水道（専用水道等）を適切に管理する。				
事業の対象者	専用水道等利用者、公衆トイレを利用する市民				
令和4年度 主な活動実績	①どんだんどの森公衆トイレの維持管理（清掃、水廻り維持管理、廃棄物収集運搬） （※松原川公衆トイレは運用を停止し、令和3年6月11日に撤去完了） ②専用水道等の検査、専用水道取扱事務の佐賀市上下水道局への管理委託				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	5,715	4,004	4,170		
うち佐賀市の負担額	5,715	4,004	4,170		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
トイレが使用可能な平均日数						日
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
365	365 365	365 365	365	365		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	どんだんどの森公衆トイレは、清掃、点検等適切な維持管理を行い、年間を通して使用可能な状態を維持できた。



成果目標達成に向けた対応策等
どんだんどの森公衆トイレは、施設の経年劣化がみられることから、施設の安全性を確保・コストの増加を抑制するため、計画的な修繕に努める。

令和5年度 事務事業実績報告シート

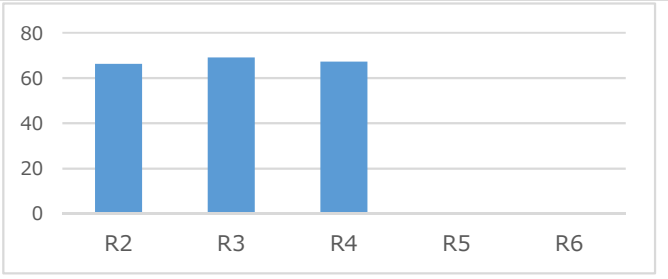
事務事業名	犬の適正管理対策経費	事業期間	昭和 40 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上		
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善		

1 事務事業の基本情報

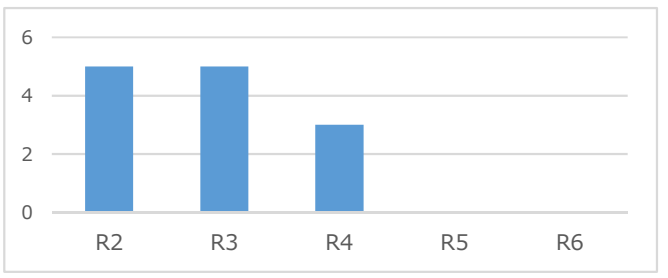
事業概要・目的	狂犬病の発生を予防し、そのまん延を防止し、及びこれを撲滅することにより、公衆衛生の向上及び公共の福祉の増進を図り、動物による人の生命、身体及び財産に対する侵害並びに生活環境の保全上の支障を防止し、人と動物の共生する社会の実現を図ることを目的とする。 ・犬の登録及び毎年狂犬病予防注射の実施について促進。 ・犬の登録及び狂犬病予防注射接種率の向上を図るため、狂犬病予防集合注射を校区公民館等で実施。 ・犬のしつけ方教室を開催。(R4:座学2回、実技1回実施)				
事業の対象者	生後91日以降の犬の飼い主				
根拠法令等	狂犬病予防法、動物愛護及び管理に関する法律				
決算額の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	5,240	4,839	5,275		
うち佐賀市の負担額	1,779	1,889	1,867		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
狂犬病予防注射接種率					%
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
66.23	68.99	67.23			



活動実績②					単位
犬のしつけ方教室開催数					回
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
5	5	3			



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

令和元年までの狂犬病予防注射接種率は71%前後で推移していたが、新型コロナウイルス感染症の影響による在宅時間の増加等により生活の癒しを求め新規登録件数が増加していることもあり、令和3年度に続き70%を割り込んだ。しかし、犬の適正飼育を啓発するための犬のしつけ教室は3年ぶりに参加者を集める形式で開催し、ペットの災害対策に関する座学と避難訓練を実施した。予防注射は市開催の集合注射及び市内獣医師会加入動物病院で接種する事が出来るため、それらの実施の周知や接種の啓発を今後も継続して行っていきたい。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	地域猫推進事業	事業期間	平成 21 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	地域住民が主体となって飼い主のいない猫に不妊去勢手術を施してこれ以上増えないようにし、一代限りの命を全うするまで、その地域で衛生的に飼育管理し、飼い主のいない猫の数と糞尿等の被害を減らすことで、『住み良い地域』を作ることとする。 ・不妊去勢手術費用の全部または一部を助成（自治会またはグループ） ・猫の適正飼育についての啓発				
事業の対象者	猫を飼育する市民、地域で猫を管理する団体等及び公園等に生息する飼い主のいない猫の不妊去勢手術を行う団体				
令和4年度主な活動実績	【不妊去勢手術助成頭数】 地域猫：150頭、飼い猫：75頭、公園猫：64頭 【助成実績団体数】 24団体（累計自治会数：54自治会）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	3,707	3,730	3,550		
うち佐賀市の負担額	1,293	2,374	2,742		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
猫に関する苦情件数						件
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		
32	30	28	26	24		
	25	26				

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標	R4 目標	R5 目標	R6 目標		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	地域猫活動を新たに開始した自治会が5団体（令和3年度末で49団体）増え、新規団体登録に関する問合せも増えていることから、地域住民が主体となって野良猫の適正管理に取組むことへの理解が少しずつ進んでいると考える。

成果目標達成に向けた対応策等

地域猫制度が市民に広く浸透しているとはいえないため制度について広く周知し、さらに活動を広めていく必要がある。
 なお、不妊去勢手術後は野良猫の増加が抑制されるだけでなく、発情がなくなることにより発情期特有の大きな鳴き声や、ケンカの減少、尿の臭いの軽減などの効果があるため、地域猫活動未実施の地域への取り組みを促したい。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	カラス対策事業	事業期間	平成 21 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上		
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	カラスは、繁殖のために作った巣周辺を通行する人を警戒し、攻撃を行うことが多々ある。この攻撃の原因となる巣、雛及び卵を撤去することで、市民への被害を防止している。また、県内最大のねぐらである佐賀城公園には1万羽ものカラスが集まる時期があり、このカラスの集団が引き起こす、ふん害やゴミ集積所を荒らす等の被害を抑制するため、大型箱わなを用いてカラスを捕獲し、個体数調整を図っている。				
事業の対象者	カラスによる生活被害を受ける市民全般				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> カラスの巣、雛及び卵の撤去 巣21 雛31羽 卵3個 箱わなによるカラスの捕獲 923羽 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	7,287	7,992	9,081		
うち佐賀市の負担額	4,377	5,082	6,137		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
カラスに関する苦情件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
46	40 46	40 45	40	40		

成果指標②						単位
箱わなにより捕獲したカラスの数						羽
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
1,479	1,700 949	1,700 923	1,700	1,700		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	苦情件数は横ばいであり、減少にはつながっていない。 箱わなでの捕獲数については大きく減少しており、原因についてはわな周辺での工事等による環境変化が考えられる。

成果目標達成に向けた対応策等

- 過去の履歴から、カラスの攻撃による苦情が発生した箇所を事前に見回り、効率的な巣の撤去につなげる。
- 箱わなの設置場所やわな自体の改良を行い、捕獲数増を目指す。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	アライグマ等対策経費	事業期間	平成 27 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上		
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	特定外来生物であるアライグマは、近年の市内における捕獲状況から、生息数、生息域ともに拡大していると考えられ、農畜産物の食害、家屋等への侵入や、そこでの糞尿による生活環境被害が発生している。アライグマとその被害を増やさないため、適切かつ効果的にアライグマの防除を行う。				
事業の対象者	アライグマによる生活被害（住環境を主としたもの）を受けている市民				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・箱わなを設置しての捕獲と処分。 ・現地調査時に被害防止のための助言。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,473	4,719	4,371		
うち佐賀市の負担額	910	2,993	3,343		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
アライグマに関する苦情件数						件
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
109	100 133	100 180	100	100		

成果指標②						単位
アライグマの捕獲頭数						頭
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
90	100 134	110 142	120	130		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	苦情件数は増加し目標を下回った。アライグマに関する啓発により、目撃情報や相談件数などは今後さらに増加することが考えられる。一方、市民からの連絡の増加に伴い、捕獲頭数も増加し目標を上回った。



成果目標達成に向けた対応策等
令和3年度から新たなアライグマ防除計画が策定され、市民でも許可を得た上で防除従事者として捕獲が出来るようになっている。アライグマに関しての周知、啓発を強化し防除従事者を増やすことで、市と市民が一体となった全域的な捕獲を行い、捕獲頭数のさらなる増加を目指す。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	環境マネジメントシステムの推進と普及	事業期間	平成 13 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

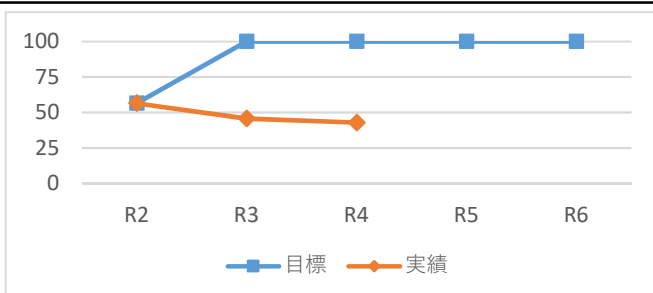
事業概要・目的	①行政機関として、率先して事業活動における環境負荷の低減を図るため、環境マネジメントシステム（EMS）を運用する。運用手段として、市役所内に環境組織を形成し、EMSの構築・推進を行う事務局の役割を担う。 ②環境経営認証取得助成
事業の対象者	①市職員（市長部局、教育委員会、上下水道局、交通局、富士大和温泉病院） ②市内事業所
令和4年度主な活動実績	①全庁におけるEMSの実施 ②環境経営推進事業費補助金交付

決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない

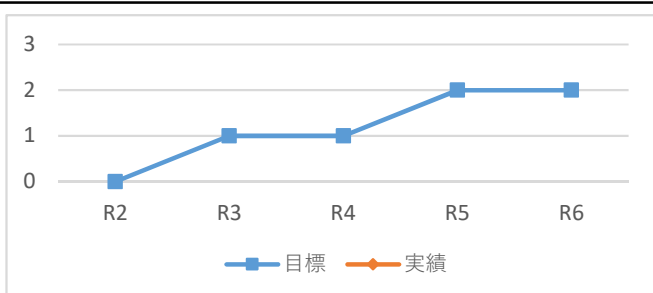
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	1,958	2,093	2,036		
うち佐賀市の負担額	1,958	1,836	1		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
各部門の共通目標達成の割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
56.5	100 45.7	100 42.9	100	100		



成果指標②						単位
環境経営認証取得事業者補助件数						箇所数
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
0	1 0	1 0	2	2		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	各部門の共通目標達成の割合については部門毎に目標を設定しているが、令和5年度は機構改革等による部署移動が多く、排出物が増加した部署が多くみられた。実績による分析と目標及びその施策の検討が十分でないため、目標達成に至らないことが考えられる。

成果目標達成に向けた対応策等

共通目標（コピー用紙の購入量削減、職場排出物の抑制、施設エネルギー使用量の削減、自動車燃料使用量の削減、グリーン購入の推進）の未達部門への個別アプローチや各課の環境マネジメントシステム推進員への働きかけ等の支援を行う

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	環境教育の推進（子ども）	事業期間	平成 13 ～ 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	環境教育の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	児童生徒だけでなく、教職員を含む学校全体の環境のマネジメントを目的に、環境保全の意識と実践力を高める学校版環境 I S O 活動を推進する。また、小中学校における環境教育を推進するため、佐賀市教育委員会と連携し、教職員向けの研修会を開催する。				
事業の対象者	佐賀市立小中学校等の児童、生徒、教職員				
令和4年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市学校版環境 I S O 活動：すべての市立小中学校で、子どもたちが自ら環境にやさしい活動を企画・実践し、環境にやさしい学校づくりを行う活動を推進。 ・環境保全意識の向上のため、小学校4年生を対象に社会科副読本「くらしとごみ」を作成。 ・子ども環境ポスター展の実施（応募点数：小中学校あわせて335点） ・市立小中学校が佐賀市清掃工場、東よか干潟を見学する際にバス借上げ料の一部を負担。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,867	3,243	3,300		
うち佐賀市の負担額	2,024	2,235	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位	
教職員向け研修会参加延べ人数						人	
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績			
53	65 53	65 49	65	65			
成果指標②						単位	
児童・生徒数における子ども環境ポスター展応募割合						%	
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績			
1.9	2.1 2.3	2.3 1.9	2.4	2.6			

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	各学校への通知文の送付や、市報・市ホームページを活用し、環境ポスター展の募集を行い、子ども達の環境に対する意識の向上を図っている。



成果目標達成に向けた対応策等
小中学校での環境教育を充実させ、さらに子どもの環境保全に対する意識の向上を図るため、引き続き教育委員会と連携し、小中学校への支援を行う。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	次世代自動車普及推進事業	事業期間	平成 29 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築		
	基本事業	温暖化防止対策の推進		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	地球温暖化防止対策の取り組みとして、電気自動車を安心して利用できるためのインフラ整備や、電気自動車の先行導入を行い、走行時に温室効果ガスを排出しない電気自動車の普及促進を図る。				
事業の対象者	電気自動車等（EV等）ユーザー、ガソリン使用車両ユーザー、庁内全部署				
令和4年度 主な活動実績	公用電気自動車等の維持管理のほか、電気自動車の普及を図るため、市内の4施設に設置している急速充電設備の維持管理を行った。（R5.1.31に充電設備を譲渡しており、市の維持管理業務は令和4年度で終了した。充電サービスは譲渡先にて継続中） ○急速充電設備設置施設…諸富文化体育館（ハートフル）、道の駅大和そよかぜ館、佐賀市役所富士支所（西側駐車場）、久保田特産物直売所味らん館				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	6,764	5,550	4,170		
うち佐賀市の負担額	2,737	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
電気自動車急速充電設備利用回数（市内の4施設）						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
7,796	7,900 6,785	8,000 4,567	8,100 —	8,200 —		

成果指標②						単位
公用電気自動車等（原付含む、バス、特殊車両除く）所有台数						台
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
7	10 7	12 9	14	16		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	上記の利用回数は譲渡前（R5.1.30まで）の値である。新型コロナウイルス感染症による外出控えややまびこの湯の充電設備の廃止（R3.3）等によると考えられる近年の減少傾向も回復に至らなかった。公用電気自動車は新たに2課で導入した。



成果目標達成に向けた対応策等
公用電気自動車等の導入推進のため、庁内に向けてグリーン購入方針（公用車の更新時における電気自動車等の導入）の遂行について周知する。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

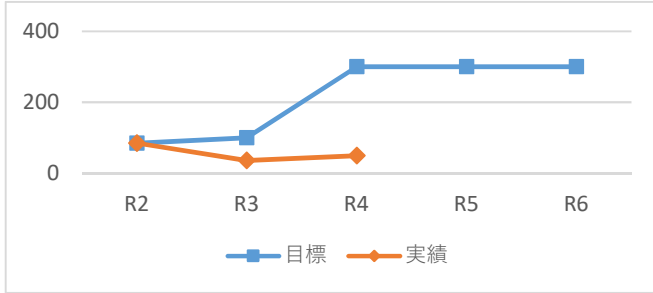
事務事業名	洞鳴の滝小水力発電活用施設管理事業	事業期間	平成 30 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築		
	基本事業	再生可能エネルギーの普及促進		

1 事務事業の基本情報

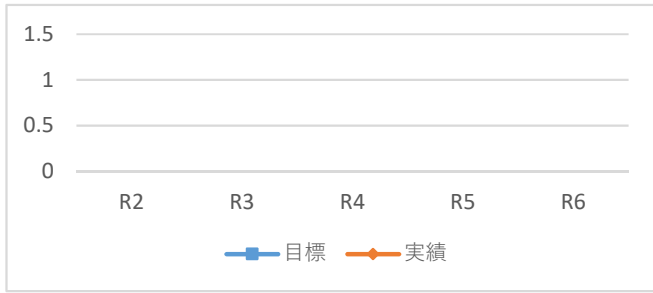
事業概要・目的	地球温暖化対策及び再生可能エネルギーに関する市民の意識の啓発、活力ある地域づくりに資するため、洞鳴の滝小水力発電活用施設を適切に管理運営する。				
事業の対象者	市民、事業所				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・小水力発電を中心とした再生可能エネルギーについての説明、環境学習（1件） ・施設の維持管理、修繕（委託） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	908	879	840		
うち佐賀市の負担額	357	1	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
洞鳴の滝ふれあい館使用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
85	100 36	300 50	300	300		



成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		



3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、施設の利用申請が伸び悩んでいる。



成果目標達成に向けた対応策等
新型コロナウイルス感染症対策を勘案しつつ、三瀬地区の地域振興はもとより、小水力発電が今後の脱炭素社会の実現に有効な手段であることを市民等へ周知し、見学・視察を含め施設利用者の増加を図りたい。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	脱炭素社会推進事業	事業期間	令和 3 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	温暖化防止対策の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	2050年までに気候変動の主な原因である二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを目的とし、令和2年10月に表明した「ゼロカーボンシティさがし」の実現に向けて、事業者と協働で取り組むためゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度を開始し、情報発信やセミナーの開催等を通して啓発を行う。				
事業の対象者	市民、市内事業者				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼロカーボンシティさがし推進パートナー表彰実施（3者表彰） ・脱炭素経営セミナーの開催（7/6、11/10） 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額		2,897	3,419		
うち佐賀市の負担額		1,025	24		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
交流会・セミナー参加者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
	89	100 93	110	120		

成果指標②						単位
ゼロカーボンシティさがし推進パートナー登録事業者数						事業者 団体
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
		50 49	100	125		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	ゼロカーボンシティさがし推進パートナーを通じて情報発信し、脱炭素への啓発を行ったことで、関心を持った事業者の参加が多くあったと考えられる。

成果目標達成に向けた対応策等

- ・市民、事業者等の脱炭素に向けた行動につながる情報発信、セミナー等を引き続き実施する。
- ・「ゼロカーボンシティさがし推進パートナー制度」を継続し、市内事業者・団体の脱炭素に向けた取組を支援する。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	SDGs実践行動促進事業	事業期間	令和 4 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	環境教育の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	SDGsの目標達成に向けた人材育成及び実践的な行動を促進することを目的とし、本市、佐賀大学全学教育機構、リコージャパン株式会社マーケティング本部佐賀支社、佐賀SDGs官民連携円卓フォーラムの4者が連携し、佐賀大学の授業科目「佐賀SDGsグローバルアクション」の一般開放や、SDGsに関する情報共有や学び・相談の場としての「佐賀SDGs推進ネットワーク勉強会」を開催する。				
事業の対象者	佐賀市内の事業所、団体及び市民				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・4者連携協定の締結（令和4年4月4日） ・佐賀大学授業開放科目「佐賀SDGsグローバルアクションⅠ」の内容企画及び広報活動 ・佐賀SDGs推進ネットワークの設立（令和4年9月28日） ・4者連携会議を年6回開催し、「佐賀SDGs推進ネットワーク勉強会」の内容等を協議 ・佐賀SDGs推進ネットワーク勉強会を年4回開催 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額			1,000		
うち佐賀市の負担額			1,000		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
佐賀SDGs推進ネットワーク勉強会開催数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
		4	4	4		

成果指標②						単位
佐賀SDGs推進ネットワーク勉強会参加者延べ人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
		100	110	120		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和4年度は基準値となるため、令和5年度の実績結果から記載

成果目標達成に向けた対応策等

・今後も魅力ある講師の登壇や、効果的な広報を実施し、SDGsの浸透を図る。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	ラムサール条約湿地賢明利用推進事業	事業期間	令和 2 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	自然環境保全活動の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	ラムサール条約の理念である「保全・再生」、「ワズユース(賢明な利用)」、「交流・学習」につながる取り組みを推進し、東よか干潟の魅力の向上、環境保全の啓発を行う。				
事業の対象者	東よか干潟に関わる全ての者				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 東よか干潟に生息する底生生物の実態調査 東よか干潟ボランティアガイドの運営（ボランティアガイド 23人） 東よか干潟ビジターセンターを拠点として環境保全の普及啓発活動を実施 東よか干潟の環境保全やワズユースなどの普及啓発を行った者に補助金を交付（交付件数4件） 東よか干潟のシチメンソウの生育に対する環境要因の解析を実施 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	12,630	8,991	8,702		
うち佐賀市の負担額	2,223	1,421	2,218		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
東よか干潟ボランティアガイド利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
9,390	12,000 6,850	13,000 7,258	14,000	15,000		

成果指標②						単位
東よか干潟ビジターセンター来館者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
88,868	150,000 112,340	160,000 90,790	170,000	180,000		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	新型コロナウイルスの影響もあり、ボランティアガイドの利用及び来館者数は目標に届かなかった。しかし、ワークショップや地域一体となったイベントなどラムサール条約湿地を活かした活動を展開し、東よか干潟の魅力向上を図ることはできた。



成果目標達成に向けた対応策等
東よか干潟の情報発信を強化するとともに、ボランティアガイドのスキルアップ及び来訪者の満足度向上に取り組む。また、東よか干潟ビジターセンターを中心にイベントやワークショップ等の学習や普及啓発事業を行い、新規来館者やリピーターの確保に取り組む。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	自然環境保全推進事業	事業期間	平成 31 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	自然環境保全活動の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	佐賀市の多様な自然を未来に引き継ぐため、希少種等の保全を図るとともに、市民が自然や生き物に親しみ、自然環境を保全する意識の醸成を図る。				
事業の対象者	市民、市の公共工事施工担当課				
令和4年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会「さがの生きものさがし」の開催：3回 ・トンボ写真コンクールの実施（応募点数851点） ・希少なトンボ（ミヤマアカネ）の保全活動（富士町） ・自然環境懇話会の開催（2回）及び公共工事の実施前後の環境調査（調査件数3件） ・白石原湿原（久保泉町大字下和泉）の維持管理 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	2,166	1,972	1,893		
うち佐賀市の負担額	2,166	1,972	1,893		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
自然観察会参加者延べ人数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
18	80 52	100 57	100	100		

成果指標②						単位
自然環境調査における環境配慮要請事項の公共工事への反映割合						%
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
100	100 100	100 100	100	100		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会については、市報と市ホームページのみで広報したため、参加者数が伸び悩んだと考えられる。また、観察会1回で参加できる人数には限りがあり、目標との乖離が発生しているため、今後目標の見直しも必要。 ・市工事前後の環境調査に関しては、工事担当課において徹底されている。



成果目標達成に向けた対応策等
自然観察会については、本市の豊かな自然環境について、興味・関心を持つように市民等に広く周知を図り、多数の方が本市の豊かな自然環境について幅広く体験できるような開催方法を検討していく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	東よか干潟拠点施設維持管理事業	事業期間	令和 2 ~ 令和 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	自然環境保全活動の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	東よか干潟の自然環境及び生物多様性の保全を推進とともに、その価値や魅力を発信し、観光・交流・学習などのさまざまな活動や地域の活性化を図るための拠点として、東よか干潟ビジターセンターの適正な維持管理を実施する。				
事業の対象者	来館者				
令和4年度 主な活動実績	施設の維持管理 ・機械警備、定期清掃等業務委託 ・電気、上下水道、業務機器等の維持管理				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	10,711	18,565	16,985		
うち佐賀市の負担額	10,711	4,888	6,748		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①					単位
東よか干潟ビジターセンター来館者数					人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	
88,868	150,000 112,340	160,000 90,790	170,000	180,000	

成果指標②					単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	新型コロナウイルスの影響もあり、来館者数は目標に届かなかったが、東よか干潟の拠点施設として、環境学習や観光目的に多くの方に利用されている。



成果目標達成に向けた対応策等
適正な維持管理を行い、施設自体の美観を保つとともに来館者の満足度向上に取り組む。

令和5年度 事務事業実績報告シート

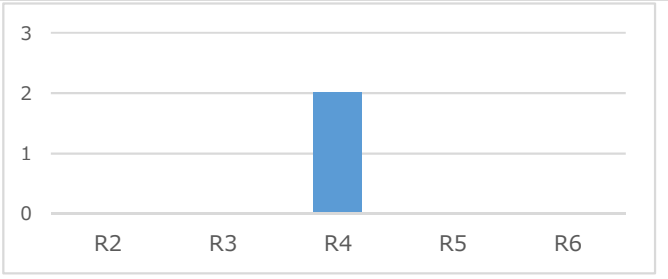
事務事業名	自然環境調査事業	事業期間	令和 4 ~ 令和 7 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	自然環境保全活動の推進	

1 事務事業の基本情報

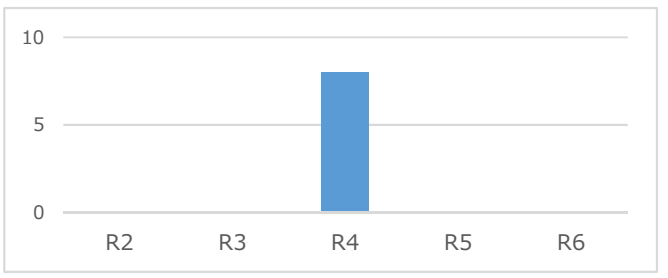
事業概要・目的	本市全域の様々な環境下における動植物の生息・生育状況の実態を調査し、本市の自然環境の多様性の状況を客観的に裏付けるとともに、希少生物や特定外来生物の分布状況を把握することで、自然環境の保全や地域資源としての利活用等、今後の環境施策の重要な基礎資料とするため。 今回は第5回目の調査として、令和4年度から7年度にかけて全市域を対象として実施する。				
事業の対象者	市民				
根拠法令等	環境基本法 第7条				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額			511,830		
うち佐賀市の負担額			511,830		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
現地調査項目数					項目
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
		2			



活動実績②					単位
現地調査地点数					地点
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
		8			



3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

令和4年度は既存資料調査および今後の活動方針決定を主に行い、現地調査については鳥類と両生類・爬虫類の2項目のみ冬季に行った。

令和5年度からは本格的に調査が始まるので、今後、全7項目および数十地点での調査を予定している。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	海洋プラスチックごみ対策啓発事業	事業期間	令和 4 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 自然環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	環境教育の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	プラスチックごみの海洋流出は、近年地球規模の問題となっており、ここ数年豪雨災害が頻発し、有明海に面した本市も毎回大きな影響を受けている。本問題は世界規模ではあるが、一人ひとりの意識や行動により抑制できる部分もある。海洋プラスチックごみ対策の啓発活動を行い、この問題に対する市民の関心を高め、かつ保全に向けた取り組みと自然環境を大切にす意識の醸成を図る。				
事業の対象者	市民				
令和4年度 主な活動実績	環境省が定める環境月間である6月に、海洋プラスチックごみ対策に係る下記啓発イベントを開催。 ・企画展：「海洋プラスチックごみについて考えよう」をテーマにパネルや実物のごみを展示。 ・講演会：「科学の目で見た海洋プラスチック汚染について」（講師：九州大学応用力学研究所 磯部教授） ・ワークショップ：マイクロプラスチックを用いた万華鏡づくりを通して、海洋プラスチック問題について学習。 ・おはなし会：子ども向け絵本の読み聞かせ（「わたしのうみべ」など）				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額			838		
うち佐賀市の負担額			838		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
啓発イベントの開催回数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
		2	2	2		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
	令和4年度は基準値となるため、令和5年度の実績結果から記載



成果目標達成に向けた対応策等
次年度も海洋プラスチックごみ対策に係る啓発イベントを開催し、その中で海洋プラスチックごみに関する映画の上映や、各種ワークショップなどを行い、市民の海洋プラスチックごみ問題に対する理解を深めてもらい、プラスチック使用量削減に向けた一人ひとりの行動につなげていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	衛生害虫駆除事業	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上	
	基本事業	生活に密着した環境問題の改善	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 日本脳炎を媒介するアカイエカを防除するため、河川・クreekにおける蚊の幼虫（ボウフラ）の発生状況を調査し、それに応じて薬剤を散布して、幼虫の駆除を行う。 昼間に活動するヒトスジシマカの発生を抑制するため、発生源が庭のたまり水など身近にあることをホームページなどで市民に周知し、防除対策を促す。 				
事業の対象者	市民				
主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> 4月から9月にかけ河川等の1,461ヶ所で蚊の幼虫の発生状況を調査し、アカイエカ幼虫の駆除を行った。 ホームページ等でヒトスジシマカの発生防止の啓発を行った。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	17,760	15,620	14,385		
うち佐賀市の負担額	17,760	15,620	14,385		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
河川のアカイエカ幼虫発生ヶ所数						ヶ所
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
410	400 393	350 443	350	350		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
②概ね達成している	令和4年度は令和3年度と比べて梅雨が短く、雨量も平年の68%であったため、幼虫等の発生に比較的適した気候であったことが増加の要因と考えられる。過去10年の推移では長期的には減少傾向にあるため、一定の効果は得られていると考える。

成果目標達成に向けた対応策等

現在調査している河川での発生状況を吟味し、今後の調査・駆除に反映させ、作業効率を上げていく。

令和5年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	佐賀市環境保健推進協議会経費	事業期間	昭和 40 ~ 年度
担当部署・係名	環境政策課 生活環境係	担当課長名	梶山 孝英
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち	
	施策	19地球にやさしい低炭素社会の構築	
	基本事業	環境教育の推進	

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	地域住民への環境思想の普及を図り、環境問題への関心を深め、地域住民自らの創意と工夫により、循環型社会と健康づくりに取り組む佐賀市環境保健推進協議会の活動を支援し、市民の健康で快適な生活環境づくりに寄与する。本協議会は、各校区自治会に実践本部、各単位自治会に支部を設置し、地域の実情に即した環境保健に関する取り組みを実践している。				
事業の対象者	市民・自治会				
令和4年度 主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・当協議会に3つの部会（環境保全部会、ごみ対策部会、健康推進部会）を設置し、様々な環境保健事業を推進。 ・毎年1回「環境保健推進大会」を開催。環境や健康に配慮した活動を行っている市民や事業所に対し、その功績や努力を顕彰するための功労者表彰や講演会などを行い、市民への環境及び保健に関する啓発を実施。令和4年度は大会を開催し、功労者表彰（事業所1社、個人功労1名、団体功労2団体）及び講演会を実施。 				
決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	11,332	11,772	11,746		
うち佐賀市の負担額	0	0	0		

2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
環境保健啓発活動回数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
7	8 8	9 8	10	11		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	各部会の活動はじめ協議会活動を支援し、各自治会に対して、環境保健に関する啓発活動を実施することができた。



成果目標達成に向けた対応策等
地域コミュニティの希薄化が問題視され、活動が広がりにくい状況となっているが、市民や地域による自主的な活動の受け皿として、これまでどおり協議会の活動を支援し、活動の継続を図っていく。また、コロナ対策に伴う各種規制も緩和されているため、従前の参集型の団体活動についても積極的な取り組みを促したい。

令和5年度 事務事業実績報告シート

事務事業名	下水道事業会計繰出金	事業期間	平成 24 ~	年度
担当部署・係名	環境政策課 ゼロカーボンシティ推進室	担当課長名	梶山 孝英	
総合計画における位置づけ	政策	恵まれた自然と共生し、人と地球にやさしいまち		
	施策	21暮らしに身近な生活環境の向上		
	基本事業	下水の適切な処理		

1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	総務省繰出し基準に基づく下水道事業会計への繰出金等。 最近における社会経済情勢の推移、地方公営企業の現状を考慮し、地方公営企業法等に定める経営に関する基本原則を堅持しつつ、地方公営企業の実態に即した経営の健全化を促進し、その経営基盤の強化を図る。 繰出金の対象としては、公共下水道や市営浄化槽等の管理運営にかかる経費のほか、雨水の排水対策やバイオマス関連事業等がある。				
事業の対象者	市民、上下水道局				
根拠法令等	地方公営企業繰出金について（総務省）				
決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業費総額	2,801,140	2,830,223	2,890,444		
うち佐賀市の負担額	2,796,489	2,830,223	2,814,693		

2 事業の活動実績

活動実績①					単位
下水道整備面積					ha
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
5,006.80	5,019.15	5,031.48			

活動実績②					単位
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	

3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

下水道の整備面積については、未普及地域に対する下水道の整備（面整備）が平成30年度をもって概成しており、現在は面整備時に諸事情によりできなかった箇所の整備を随時行っている。今後も安定した下水道サービスを維持するため、経費を負担していく。